

関連施設



救急自動車線  
外来車線  
職員車線

▽人が集まり、地域のに  
ぎわいを創る施設▽経済  
性と環境に配慮した施設  
▽成長と変化に対応する

# 第3回自然災害伝承碑探訪開催

## 地域防災への知見深める

日本技術士会中国本部  
山口県支部

日本技術士会中国本部  
山口県支部(河内義文支  
部長)は14日、第3回  
「自然災害伝承碑」(山  
口・防府豪雨災害から15  
年)探訪を開催。200  
9年7月に防府市内で発  
生した豪雨の状況や教訓  
などを後世に残す自然災  
害伝承碑を訪れ、地形の  
特徴や土地利用の変化な  
どの知見を深めて地域防  
災について考えた。

最初に河内支部長が、  
「朝から雨が降り出して  
土石流が発生した。27  
0mm位の雨が降り、確率  
的に見ると350年間隔  
の雨だった。能登半島の  
豪雨では90mmの雨が2時  
間降り続いた。中国地方  
は雨が少なく、ため池が  
多い地域だが、気候変動

により今ではどこでも災  
害が起こりうる可能性が  
ある。そのため、災害記  
念碑、伝承碑の登録は非  
常に重要だと思つ。皆さ  
んには、専門家として今  
日見たことをいろんな所  
で啓発してもらいたい」  
とあいさつした。

その後、豪雨災害碑が  
ある松ヶ谷神社(奈美)  
を訪れ、近くに住む住  
民から「朝から叩きつけ  
るような雨だった。家の  
周りに松ヶ谷川があり、  
上流にある橋からは水が  
あふれ出ていた。その  
後、急激に水位が低くな  
りおかしいなと思ってい  
たら一気に泥水や流木が  
押し寄せた」と当時の様  
子を聞きながら川の上流  
部を見て回った。

次に、大歳神社(真尾  
石原)の土石流災害箇所  
を訪れ、住民から「2、  
3mの大きな石がゴロゴ  
ロとしており足の踏み場



がなかった。近くに家が  
数件あったが、多くは更  
地になっている。100  
mくらい先に県道がある  
が、その付近まで土石流  
は押し寄せて田畑を埋め  
尽くしていた」と災害時  
の状況などを聞き、災害  
後に整備された砂防堰堤  
を見学した。また、多く  
の犠牲者が出た元ライフ

どをシステムで閲覧でき  
るようになるほか、全国  
初となる電力使用量から  
住宅の利用実態を分析す  
る。

午後からは、小野公民  
館で小野中学校生徒らに  
よる5年前から実施して  
いる豪雨災害の定点観察  
報告があった。報告の中  
で生徒からは「災害時の  
写真を見て、恐ろしく酷  
いことがよくわかった。  
災害は起きて欲しくない  
が、もし災害が発生した  
時のために日頃から災害  
について考えようと思つ。  
15年前の災害を思い出す  
機会を持ち、生涯忘れな  
いようにする」「実際に  
調査すると、テレビや新  
聞で見るとより深刻な災  
害だと実感した。経験や  
感じたことを多くの人に  
伝え、災害が起きた時に  
対応できるようにした  
い」などの感想を語っ  
た。

山口大学大学院の鈴木  
素之教授による「土砂災  
害は繰り返す―地盤に残  
る土石流の痕跡を探る  
―」と題した講演も行わ  
れ、石原地区などで実施  
した放射性炭素年代測定  
による土石流堆積物の形  
成年代測定などについて  
解説した。講演の中で鈴  
木教授は、「防府地区で  
は2009年以前に少な  
くとも8回の土石流が60  
から300年間隔で発生  
していた。中国地方は、  
水に浸食されやすい花崗  
岩類とその風化残積土が  
分布している。土砂災害  
発生リスクは元々高く、  
過去にも土石流や崩壊が  
頻繁に起きていた。近年  
の豪雨災害の被災者から  
「ここでも災害が起きたと  
聞いたことがない」など  
の声があるが、災害の記  
録や伝承、周知されず防  
災面で生かされていない」と現状を述べた。

# 11億円余で栗原工業

## 米子道TN照明設備改修

西日本高速 中国支社

西日本高速道路中国支  
社は、総合評価落札方式  
(施工能力評価型へ簡易  
型)の条件付一般競争  
入札を実施した「令和6  
年度米子自動車道播鉢山  
トンネル他5カ所トンネ  
ル照明設備改修工事」の  
結果を公表した。11億1  
300万円(税抜)で応  
札した栗原工業を落札者

管理適正評価制度、中  
国電力ネットワークの電  
力使用量データとの連  
携によって得られるもの